

教科（科目）	保健体育（体育）	単位数	2 単位	学年（コース）	2 学年（全）
使用教科書	現代高等保健体育（大修館書店）				
副教材等	現代高等保健体育ノート（大修館書店）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成します。</p> <p>① 自己を知り、他者を尊重する思いやりの心を育成します。</p> <p>② 自らの進路目標を持ち、その実現に向けて努力する姿勢を育成します。</p> <p>③ 自己の住む地域を知り、地域に貢献し、リーダーとなり得る能力を育成します。</p> <p>④ 自ら学び、自ら考え判断し行動できる力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行います。</p> <p>① 人権教育、同和教育を計画的に、教科横断的に実施するとともに、日頃からグループ学習などで生徒同士の関わりを大切にします。</p> <p>② 多様な進路希望を実現するため、基礎学力の定着やキャリア教育の充実を図り、生徒が主体的に学ぶ進路学習に取り組みます。</p> <p>③ 地域と連携しながら、ひと・文化・産業などについて深く学び、他者と協働し発展的な思考を育てる活動を行います。</p> <p>④ 「わかる授業」の実践に努め、生徒の学習意欲向上と主体的・対話的で深い学びの実践活動を行います。</p>

2 学習目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。

(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。

(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

3 指導の重点

1 年次に学んだ知識・技能をより高めていくとともに集団での活動という意識のもと、仲間と協力して考え、主体的に行動できる力を身に付ける。

(1) 陸上競技などで1年次に測定した記録と現在のものを比較することにより、今の自分のライフスタイルを振り返る機会とする。

(2) 2年生で実施する選択制授業では、種目の歴史や特性を理解し、練習計画の立案や実施、簡易ゲームを通して、生涯にわたり継続できる種目選択の基礎作りとする。

(3) 一人一人が集団の一員としての自覚を持ち、健康・安全を適切に確保した取り組みができるようにする。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養っている。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養おうとしている。

5 評価規準と評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	上記の観点を踏まえ、 ・スキルテスト ・記録測定 ・レポート等の提出物 などから評価します。	上記の観点を踏まえ、 ・授業中の取組や表現 ・レポート等の提出物 ・出欠状況 などから評価します。	上記の観点を踏まえ、 ・授業態度 ・授業準備（服装等） ・提出物提出状況・出欠状況 などから評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	オリエンテーション		・シラバス、授業について理解させる	1	
4	体づくり運動 新体力テスト		・様々な補強運動を行い、体力を高める方法を学ぶとともに、1年次の新体力テストの結果から、体力向上を図るための継続的な運動の計画を立て、取り組むことができますようにします。	6	計測結果・スキルテストの分析、授業中の取り組みや表現・授業態度の観察、レポート等提出物の内容の確認、出欠状況
5	陸上競技①	陸上競技（短距離走、跳躍）	・陸上競技では、種目の特性と施設・用具の取り扱いやルールの習得と記録計測を行う。 ・100m走、リレーではスタート方法、中間走のスピード維持、バトンワークについて、走り幅跳びではスピードに乗った助走と力強い踏切から着地までの動きを滑らかにして跳ぶことについて学習し記録計測を行う。	8	
6	選択ⅠA	球技 （ベースボール型：ソフトボール、ゴールボール型：サッカー、ネット型：バレーボール）	・各種目の特性と施設・用具の取り扱いやルールの習得とスキルテスト・簡易ゲームを行う。 ・ソフトボールでは捕・送球、バッティングの基本技術について、サッカーでは各種パス、ドリブル、シュートの基本技術について、バレーボールでは各種パス、スパイク、サーブの基本技術について学習し、それらを連携した簡易ゲームができるように学習を行う。	10	
8	体育理論	上記教科書・ノート	「スポーツにおける技能と体力」 「スポーツにおける技術と戦術」 「技能の上達過程と練習」 「効果的な動きのメカニズム」 以上について学習を行う。 「体力トレーニング」 「運動やスポーツでの安全の確保」 以上について学習を行う。	6	授業中の取り組みや表現・授業態度の観察、レポート等提出物の内容の確認
9	陸上競技②	陸上競技（長距離）	・持久走の特性と施設・用具の取り扱いやルールの習得し、走るベース、トレーニング方法について学習し、校舎外周走、マラソン大会で記録計測を行う。	9	計測結果・スキルテストの分析、授業中の取り組みや表現・授業態度の観察、レポート等提出物の内容の確認、出欠状況
10	選択Ⅱ	選択Ⅱ：武道（柔道） ダンス 器械運動	・各種目の特性と施設・用具の取り扱いやルールの習得を行う。 ・柔道では基本動作、投げ技・固め技の基本技術を習得し、それらを連携し簡易試合ができるように学習を行う。 ・ダンスではリズムの特徴を捉え、変化とまとまりをつけてリズムに乗って全身で踊ることを学習を行う。 ・器械運動ではマット・跳び箱の回転系や巧技系の基本技術について学習を行う。	12	
11					

12	選択ⅠB		球技 (ゴール型： バスケット ボール、ネット型： バドミントン、卓球)	・各種目の特性と施設・用具の取り扱いやルールの習得とスキルテスト・簡易ゲームを行う。 ・バスケットボールでは各種パス、ドリブル、シュートの基本技術について、バドミントン、卓球では各種ストロークやサーブの技術について学習し、それらを連携した試合ができるように学習を行う。	12
----	------	--	--	---	----

計64時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

*各单元ごとに、スキルテストや記録計測、試合や発表を行います。
*各自の振り返りやルールなどの理解度を評価するために、筆記テストやレポート、ワークシート、振り返りシートの提出をします。

8 担当者からの一言

体育では予習・復習は特に必要ありませんが、日頃から自己の心身と運動・スポーツに興味関心を持ち、理解を深めていくことが大切です。また、食事、睡眠をしっかりとするなど基本的な生活習慣を確立させ、心身ともに健康な状態で授業に臨んでください。授業中は生徒同士で積極的にコミュニケーションをとり、楽しく活動できる雰囲気作りを心がけ、「体育の授業が待ち遠しい」「たくさん体を動かしたい」、そのくらい前向きな姿勢で臨んでほしいものです。

授業では体育当番や班長がリードし、生徒全員が主体的に取り組み、有意義で充実した活動となるよう心がけてください。

- 【遵守事項】①授業時間を遵守する。(5分前行動ができるように意識すること)
- ②指定された体育着を着用する。(忘れた場合は授業の前に申し出ること)
 - ③用具の準備や片付け、体育施設の整備を協力して行う。
 - ④用具や器具は正しく使用し、破損しないように丁寧に扱う。
 - ⑤事故・怪我を未然に防止できるよう十分注意する。